

「リニモ沿線地域づくり構想」今後の取組の検討に係る基礎調査結果について

1. 調査目的

平成21年3月に策定された「リニモ沿線地域づくり構想」は、平成37年を展望しつつ、平成27年に取組目標年次を迎える。そこで、平成28年度以降の取組について検討するにあたり、その参考とするため、有識者等へのヒアリングを行うとともに、リニモ沿線地域に類似した先進事例調査を行う。

2. 調査内容

(1) 有識者、NPO、民間企業等へのヒアリングの実施

リニモ沿線地域や先進的な地域づくりの事例等に精通した者や「地域づくり構想」今後の取組の検討に参考となる者を対象にヒアリング調査を実施した。

区 分	氏 名	所 属
地域デザインの構築 回遊性の向上	松本 幸正	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授
	森川 高行	名古屋大学未来社会創造機構教授
		愛知県立芸術大学
		愛知享栄学園栄徳高等学校
		瀬戸商工会議所せともの祭事務局
エコモビの実施		名鉄協商株式会社
公共交通機関の活用	伊豆原浩二	愛知工業大学工学部都市環境学科客員教授
有効な情報発信	為国 孝敏	NPO 法人まちづくり支援センター代表理事
民間から見た開発上の問題		大和ハウス工業株式会社名古屋支社
		トヨタすまいるライフ株式会社

(2) 先進事例調査

鉄道等を新設し、大規模商業事業者の出店等を伴う宅地開発を行うなど、リニモ沿線地域に類似した先進地域における都市化の推移、進展状況について事例調査を実施した。

調 査 対 象	立 地 場 所
イオンモール大高 周辺	愛知県名古屋市緑区大高町
イオンモール奈良登美ヶ丘 周辺	奈良県生駒市鹿畑町

3. 「リニモ沿線地域づくり構想」今後の取組の検討に係る今後のスケジュール(案)

検討スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ●5月 (新たな取組案検討) ●6～7月 (調査等委託発注：アウトカム指標整理・構想印刷) ●7月 (素案とりまとめ) ●11月 (中間案) →パブリックコメント ●28年1月 (最終案公表)

ヒアリング調査結果

	主なテーマ	ヒアリング時に出された意見	「構想」主要施策への反映（案）
1	ITSによる渋滞解消の可能性 地域デザインの構築、回遊性の向上	<p>ITSは道路交通だけではなく公共交通・コミュニティバスを含めた交通全体をコーディネートし、モード間のシームレス化（継ぎ目の解消）を行って、ビッグデータを利用して情報を提供することにより全体を最適化する取組を行うのに役立つ。</p> <p>車両に情報提供を行い、イオンやイケアが混んでいたなら事前に駐車場に停めてリニモに乗って店舗に来てもらう。</p> <p>駐車場料金が自動で変動する仕組みがあってもいい。愛・地球博記念公園の駐車場料金が安いことでそこに車が集中してしまうので、駐車場とリニモの料金体系を一体で考える必要がある。</p> <p>信号情報を車両側に提供することで車両と信号の制御を連携させることで車の流れを円滑化する。</p> <p>渋滞解消以外にも住宅街に車が入ってこないようにする安全を守るITSがあってもいい。そのエリア内では自動的に30km/hに落とすように車のスピードを制御できるとよい。</p> <p>リニモだけでこの地域の渋滞が解消できるわけでもない、リニモ以外にもアクセス、イグレス（主要な交通手段利用後に目的地に至るまでの交通）等の手段は作っていかなければならない。カーシェアリングがうまく使えないか。</p> <p>地域デザインを考えると、人口が増え若い人も多く、店も多く、生活基盤がしっかりある地域なので、この時期に車だけではなくリニモでの移動を軸にしてあげることでこれからの時代に合っていくのではないかと。「リニモの街」などのデザインがよい。</p> <p>リニモ沿線を農業、バイオ関係の国際研究機関の集積地などにできないか。土地はあると思うので誘致したらいい。</p> <p>リニア中央新幹線ができる、この地域は羽田空港や成田空港と近くなるので国際色を強く出してもよい。</p>	<p>○大規模小売店舗との連携によるパーク＆ライドの実施</p> <p>○ITSを活用した渋滞対策の実証実験の実施</p> <p>○弾力的なリニモ利用料金の検討</p> <p>○エコマネー・エコポイントの一層の活用</p> <p>○リニモ駅から目的地までの二次交通の充実</p> <p>○政府関係機関移転による研究機関等の誘致</p> <p>○リニモ沿線の店舗での共同運送の取組の検討</p>
2	ITSによる渋滞解消の可能性 共同配送など物流の取組	<p>店舗に関しては大規模店舗利用型パーク＆ライドを進めるべき。</p> <p>駐車場の待ち情報などをカーナビ等に配信する。</p> <p>リニモに週末と休日限定の家族割引の制度を導入してはどうか。例えば4人で買い物に行く場合、リニモ利用だと運賃がそれなりに掛かってしまうので、定期券を持っている人は休日家族1人無料、2人目以降は半額などのメリットがあると、休日のリニモ利用に繋がる。名古屋市交通局のドニチエコきっぷと連携してはどうか。土日だけ沿線の大学の駐車場を借りてパーク＆ライドを実施する。</p> <p>行先によって道路のレーンを分ける。目的地が道路沿いにある車は第1車線を、通過していく車は第2車線を走行するなどのレーンマネジメントを行う。レーンごとに料金システムを導入してマネジメントを行う。</p> <p>リニモのエコポイント事業は以前から行っている、それをもっと宣伝して周知させることで、リニモでの来店者を増やす。</p> <p>大規模店舗へは大半が自動車で来ると思うが、少しでもリニモを利用して来店してもらうために、店舗側と連携して商品の配送を行い、手荷物を無くすことでリニモや自転車で気軽に来店できる仕組みをつくる。</p> <p>ヤマト運輸などの物流企業を巻き込んで、イオンやイケアをはじめとする周辺店舗との共同配送を確立するなどの新しい取り組みをすると良いと思う。</p>	
3	芸大通駅周辺の活用可能性 愛知県立芸術大学	芸大通駅といっても何も無い所なので、駅の構内を展示やPRスペースなどに活用したい。	○大学・高校・商工会議所等が連携した駅周辺のイベント開催
4	芸大通駅周辺の活用可能性 愛知享栄学園 栄徳高等学校	リニモ運営会社（愛知高速交通株式会社）からの依頼で、去年に続き今年もリニモクリスマストレインにおいて吹奏楽部が生演奏を行った。	
5	陶磁資料館南駅周辺の活用可能性 （観光地域づくり）	リニモ沿線のイベントで、せともの祭り出張出店等の検討は可能。	
6	カーシェアリングの導入可能性	<p>リニモ駅周辺にコインパーキングが設置できるかどうかポイント。また、終着駅からさらにどこかに行くという必要があるかがポイント。</p> <p>長久手周辺のカーシェアリング利用者に対して、何か特典を付けるとすれば、温泉（銭湯）や道の駅の割引券等が良いのではないかと。</p> <p>認知度を高める為に、イベント等で新しい話題を提供して、色々な所から見に来てもらえるようなものができると、より良いのではないかと考えている。例えば、学生とネットワークを組んで、電気自動車等のユニークな車を利用してもらうことが考えられる。複数の大学をネットワークでつなげて、プロモーションをかけて、地域おこしができればよい。</p>	<p>○周辺施設への回遊を考慮したカーシェアリングの導入検討</p> <p>○大学・沿線施設と連携したカーシェアリングの導入検討</p>

	主なテーマ	ヒアリング時に出された意見	「構想」主要施策への反映（案）
7	リニモと各市地域交通のあり方	<p>リニモは名古屋方面へ行き来するための移動手段ではなく、沿線地域への移動手段やリニモに乗車することを楽しむなど、リニモ自体が1つの集客施設になることを考えるべきである。</p> <p>八草駅周辺は住居だけでなく就業地区が上手くかみあう都市づくりができる重要な地域である。都心に近いため、大自然の環境の中にありながら都市的な生活を送ることができる街なので開発しやすいのではないかと。これからのライフスタイルを見据えた地域づくりが必要と考える。</p> <p>イオンやイケアはリニモ沿線地域に人が居住すると見込んで立地するわけなので、住宅のみではなく人を集める部分（就業場所や集客施設）も検討していかなければならない。</p> <p>世代ごとの生活スタイルに合った施設計画・街づくりが必要になってくる。</p> <p>高齢者には活動する場や能動的な生活スタイルが送れるような街づくりが必要である。例えば、物を作りだすような場、趣味の場、勉強する機会など。今までは医療機関などのケアの部分に重点をおいていたが、それに加えて自分の存在価値を確認できるような場をつくり、若い世代（各世代）とうまくマッチングして共存していける街づくりが望ましい。</p> <p>リニモは周辺の市の端の部分を通っているため、各市が計画に手を出しにくい状況だった。沿線開発には各市が連携をとり、市の境界を越えた計画が必要である。それが実現できれば、開発のモデル地区になれる。</p> <p>豊田市・瀬戸市・日進市・長久手市それぞれのコミュニティバスとうまくリンクさせたバスネットワークを考える必要がある。</p>	<p>○リニモを中心とし、医職住が隣接し各世代のライフスタイルに応じたまちづくりの形成</p> <p>○リニモとコミュニティバスネットワークの連携強化</p>
8	地域ブランド向上の仕掛けづくり	<p>地域全体でブランドイメージを共有し、高めていくシステム・体制を育てる。</p> <p>ターゲットの絞り込みが不十分なため、どこにでもあるような広報戦略が展開されている。そこで、先ず、自分たちの地域資源・地域ブランドの特性や価値を、客観的に分析し、認識する。次に、地域の特性や価値について、マーケットニーズを客観的に調査し、マッチングを判断する。さらに、絞り込んだマーケットニーズに発信するためのプロモーション戦略を絞り込む。</p> <p>地域住民との協働が必要。協働の必然性（なぜ取り組むのか）、協働での役割（出来ること）、その結果として何が見えるか（目標と将来像）など、できるだけ客観的かつ分かりやすいデータで共有する。</p>	○地域住民との協働による地域ブランドの形成
9	開発デベロッパーから見た開発上の問題点	<p>事業者が開発するにあたり、造成がどのようになるかといった事前の情報公開がポイントとなる。</p> <p>道路網といった社会基盤インフラが脆弱なので、こちらを先に整備することが好ましい。</p> <p>このエリアを物流の拠点にしたいという相談は多い。物流拠点としては魅力的な土地と捉えている。</p>	○民間事業者との連携による土地開発の検討
10	スマートシティ開発の可能性	<p>リニモ沿線地域の丘陵地の高低差を活用して、エネルギーをできるだけ使わない街づくりをするためには、造成プランの段階から民間事業者も参加することが重要だと思う。既に造成されてしまっていては活用方法が考えにくくなってしまう。区画整理事業では造成の段階から参加した方が開発イメージを描きやすくなる。</p> <p>スマート＝エネルギーマネジメントと思われがちだが、そもそもエネルギーを極力使わない暮らしもある。例えば、夏は風通しを良くして快適にする、冬は光を多く取り入れて暖かくするような家・街づくりもスマートと言える。そういった意味でリニモ沿線地域は、自然環境を存分に取入れた街づくりができる地域だと思う。例として、緑化技術を取り入れて緑のネットワークがつながり、そこから愛・地球博記念公園や海上の森とつながる。また緑のネットワークがつながれば、生物多様性などもつながっていく。</p> <p>戸別単位ではなく1つの地域をコミュニティ単位として、コミュニティ内の全住宅にソーラーパネルと蓄電池を設置し、電力は売電するのではなく、自分たちで使って地産地消することを目的としたスマートハウスについての実証実験に参加している。これは経済産業省の事業なので設備の無償貸与ができるが、すべての設備を自前で購入するとなると高額になり実現性が難しいと思う。なので、官民協力して補助金を出すなど対策が必要。モビリティの部分では、集合でパーソナルモビリティのようなもの、例えば300戸の中に10台の車があって、それをシェアして駅までの行き来に利用するなどを実施している。</p>	<p>○地域コミュニティを単位としたエネルギー地産地消の取組検討</p> <p>○地域エネルギー管理システムによる需要の変動に応じた施設間融通を可能にするスマートシティの形成</p>

先進事例調査結果

先進事例	成功ポイント	問題点	リニモ沿線地域への応用
		今後の課題	
<p>イオンモール大高 周辺</p>  <p>調査対象として選定した理由 リニモ沿線地域と同じ愛知県内で鉄道沿線に大規模商業施設があり都市の郊外部に位置していることから、類似していると考え選定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業による計画的な住宅の開発 イオンモール大高と隣接するJR南大高駅がペデストリアンデッキで直結されている。(来店客の2割程度が駅利用) イオンモール大高では、パーク&ライド施策を実施している。(平日限定：利用時間：午前6時～翌午前1時、駐車台数100台) イオンモール大高では、名鉄バスで来店した利用者には、名鉄鳴海駅までの復路バスチケットの配布を行っている。 商業施設開業後も、交通調査を実施し臨時駐車場(1,000台)を整備するなど、継続的な交通渋滞対策を検討している。 	<p>商業施設開業後、JR南大高駅が整備されたが、バスネットワークが弱い ため、公共交通機関への転換は少ない。 また、自治体を跨いだバスネットワークが形成されていない。南大高駅へのバス乗り入れは、名古屋市営バスが主流。</p> <p>南大高駅の利用者が増加傾向にあり、バスネットワークの充実が必要。</p>	<p>①住宅開発に関する施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業による計画的な住宅の開発 (長湫南部土地区画整理事業で開発された住宅地のイメージ <例：敷地面積50坪程度、4LDK庭・駐車場2台付き一戸建て>) 高齢者と子育て世代が共に住める街づくり <p>②渋滞対策に関する施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模小売店舗との連携によるパーク&ライドの実施 臨時駐車場の設置など、開業後も継続した交通渋滞対策の実施 <p>③公共交通機関の利用促進に関する施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 復路分のリニモやバスのチケット配布による公共交通利用促進 自治体を跨いだ、民間事業者の力を活用した、面的なバスネットワークの充実 ICカードの導入によるリニモと名古屋市営地下鉄との乗り継ぎの利便性向上(エコポイントの付与など)
<p>イオンモール奈良登美ヶ丘 周辺</p>  <p>調査対象として選定した理由 鉄道沿線に大規模商業施設があり、高低差のあるエリアでの住宅開発が行われたことから、リニモ沿線地域に類似していると考え選定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業による計画的な住宅の開発 学術研究都市というブランド化。緑が多く戸建住宅の土地面積も広い。 国家プロジェクトである関西文化学術研究都市の形成が進められている。それにより自治体を跨いだバスネットワーク形成が進んだと考えられる。近鉄けいはんな線の始発駅である学研奈良登美ヶ丘駅へのバス乗り入れは、民間事業者(奈良交通)のみとなっている。 大阪都心部まで地下鉄と近鉄が相互乗り入れを行っている。(大阪市営地下鉄本町駅まで約36分で直通運転) 奈良県警が推進している防犯対策のブルーライト(青色防犯灯)を設置し安全安心を促進。 <p>参考：新築1戸建て値段 170㎡(約50坪)3,600万円～4,000万円 200㎡(約60坪)5,000万円～6,000万円</p>	<p>高齢化が進んでいる(登美ヶ丘校区29.2%)。学研奈良登美ヶ丘駅の北側に位置する鹿ノ台の高齢化率(鹿ノ台小学校区：平成19年度23.1%)は低いものの、同世代が多く、将来的には高齢化が進む。</p> <p>若者世代と高齢者が共に住みやすい街づくりの検討が必要。</p>	